

①～④までの「人」（モンテッソーリ教師・異年齢の子ども）と「モノ」（子どもサイズの生活道具・魅力的な教具・豊かな自然）という環境に加えて、子どもが心から「やりたい」と思うことを十分にできるために必要な環境が「⑤ **自分で遊びを選び、やり遂げる十分な時間**」です。

園での活動は、それが教具や教具以外の遊び、また戸外遊びでも、

- \*自分で「やりたい」と思った活動を自由を選び、
- \*自由な雰囲気の中で
- \*自由な時を過ごせることを大切にしています。



大人の思いや強制で行った活動と子どもが自由意思で選択した活動とでは、子どもの集中力や満足感には大きな差が生まれます。

やらされている活動は、結局あまり身につかないものです。

自由な時間の中での活動は子どもの注意力も集中し、このような体験が増えることで、子どもは知性を磨く基礎をつくっていくといわれています。

人に指図されず、自分のやりたいことを満足できるまでできる十分な「時間」を保証された園での生活が、子どもに「やりたいこと！」気持ちを次々に起こさせ、自分を成長させていくのです。



子育ての目標は「子どもに良い生活＝発達を援助する、発達段階に応じた適切な環境＝を与え、人間として人間の中で自立していけるように援助すること」

そして自立とは「自分というものを信じられるようになること、自分は何が好きで何をやりたいのか、自分の気持ちを表現できること」と考えています。